令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) いずみ認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<p>子ども主体で異年齢活動を始めて3年目になる。以前は各クラスごとで遊んでいた自由遊びだが、今は4・5歳児と一緒に遊ぶ姿が見られるようになり、4歳児が5歳児の輪の中に入って遊んでいる。</p> <p>現3歳児が2歳児の時、現5歳児がよくお手伝いに来てくれていた。そこで一緒に行動をとったりしていたのだが、今年3歳児に進級すると、困っていても現5歳児が気にかけることなく通り過ぎていた。幼児クラスに進級したのでお手伝いはしなくていいと感じたのかもしれないが、このような4・5歳児と3歳児の溝をどうつなげていくのか。そして、今年も2歳児クラスと交流を持つことに対し、子ども達に私たちがどのような言葉がけをし乳児クラスの子どもが幼児クラスに進級しても継続的に4・5歳児クラスの子ども達と交流ができるか、保育環境を考えていかなければならない。</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して友達と関わりを深め、工夫したり協力したりしながら一緒にする楽しさを味わう。 異年齢活動を通して思いやりや憧れの思いを育み、社会性を培う。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活や行事の中で、異年齢児との関わりが持てるよう環境や遊びの内容の工夫をする。状況によっては保育教諭が代弁したり仲立ちとなったりすることで、適切な関わり方を知らせていく。 人対人として関わりを深めるために、クラス名での呼称よりも個人名での呼称を職員が意識し、各クラスの活動内容も職員間で共有する。 乳児クラスとの関わりが「お手伝い」だけにならないよう、朝と昼の自由遊びに参加し、関わりが広がるようにする。また、まわりの職員が仲介に入り、関わるきっかけを作っていく。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 運動会后、年長児が縄とびをしている姿を見て、年中児が縄とびに興味を持った。なかなか思うように跳べなかった年中児に年長児が、縄の端を2人で持ち、「縄が足のところへきたら、跳ぶ！わかった？」と話している姿が見られた。その後、縄とびをつなげて大縄とびのようにして、一緒に跳んで遊ぶようになった。また、ボール遊びのとき、サッカー教室で教えてもらったゲームを年長児がしていると年中児や年少児と一緒にゲームをする姿が見られるようになり、年少児にもボールがまわるように年長児が気にかけるなど、年下クラスの友だちを思いやる姿や、年上クラスの友だちに憧れる姿が見られるようになっている。 異年齢活動の遊びを話し合っている時に、「〇〇組の子」ではなく、年下クラスの子どもの名前が出てきている。また、週1回の活動で、グループメンバーの性格を把握してきているので、年下クラスの子どもたちにはどのような遊びが良いか、年長児が話し合っている。 自ら進んで年下クラスに手伝いに行くようになり、「〇〇ちゃん、おいで!!」「〇〇ちゃん抱っこ」と乳児クラスの子どもの名前を、優しく呼んで関わる姿が見られるようになった。
評価	<p>異年齢での子どもたち同士の関わりを大切にするため、各クラスの活動内容の共通理解を図ったり、子どもたちの呼称の仕方にまで気を遣ったり一貫してきめ細かな実践に心掛けている。その結果、年長児の子どもたちが、年下のクラスの子どもたちを気遣ったり、思いやりたりする姿が多くみられるようになっており、「体」だけではなく「心」の成長が随所に実感できるようになっていることは素晴らしい。子どもたちの姿をしっかり観察しており、今後もこの姿勢で子どもたちの成長に益々寄与していただきたい。</p>